

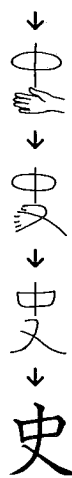
史

四年

筆順
シ

口 史

成り立ち



「中」と、「手」の形を表した「又」とを組み合わせて作った字です。

むかし、できごとを書くばあい、左にも右にもかたよらず、どちらにもひいきをしないで書くことにつとめました。それで、「できごとを書いたもの」を「史」と言いました。例史書、史料、歴史。

〔本来は「中正を保持する人」という意味の字であつて、「史官」を意味する字である（それで、「史」を「ふび」と訓むわけである）。しかし、今では、もっぱら「史書」の意味に使われているので、そのように説いた。〕

使い方

- ▽ある国の歴史を深く研究するには、その史料を読まなければなりません。
- ▽この映画は史実にもとづいて作られているので、なかなかおもしろい。

熟語例

- ▽史書（歴史の書物）
- ▽史料（歴史を研究する時につかう資料）
- ▽歴史（人間社会のできごとと記録。「歴史に残る大事業」などというふうには、つかいません。）
- ▽史実（歴史にもとづいた事実）
- ▽史跡（歴史上の重要なできごとや建物などがあつたところ。「史跡めぐりの旅に出る」などというふうには、つかいません。）
- ▽史学（歴史学。歴史を研究する学問のことです。）
- ▽国史（わが国の歴史）
- ▽美術史（美術の歴史）
- ▽正史（国家が編修した歴史）
- ▽外史（民間の人が書いた歴史。「日本外史は頼山陽が書いたものです」などというふうには、つかいません。）

司

四年

筆順
シ

口 司

成り立ち



「君主」の意味を表した「后（年 879）」から、命令をうける人のすがたを表した「司」と「口」とを組み合わせて作った字です。

「君主から命令をうけて、それを人々につたえる人」を表した字です。「役人」という意味の字です。例国司、上司。

また、役人はしごとを「つかさどる人」なので、「つかさどる」という意味にも使われます。例司会（者）、司書、司祭。

使い方

- ▽その件は、上司に相談することにしました。
- ▽司令官の命令で、兵士たちは、さっと守備位置に着きました。

熟語例

- ▽国司（むかし、諸国につかわされて、その国をおさめた役人。国のつかさ）
- ▽上司（上級の役人。うわやく）
- ▽司会（会の進行をつかさどること。またその人）
- ▽司書（書物をつかさどる人。図書館で、本の貸し出しや整理のしごとをする人）
- ▽司祭（カトリック教会で、儀式をつかさどる人）
- ▽司教（カトリック教で、司祭の上の役目をする人）
- ▽司令（軍隊などを指揮すること。また、その人）
- ▽行司（すもうの勝負の進行をつかさどる人。また、「行司を買って出る」などというふうには、「勝負を判定する人」の意味にもつかいません。）